
調 査 年 報 32

令 和 元 年 度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡遠景



調査状況
幸連 5 遺跡



H-9 覆土中位貝集中検出作業（縄文時代中期）



H-9 タイ類歯骨出土状況



H-9 アワビ出土状況



H-9 巻貝（クボガイ類か）出土状況



H-9 アシカ科犬歯 出土状況



P-478 炭化クリ集中検出状況



P-478 炭化クリ集中検出状況



P-478 炭化クリ検出状況



P-297 炭化イネ科茎集中(ススキか)検出状況



P-297 炭化イネ科茎検出状況



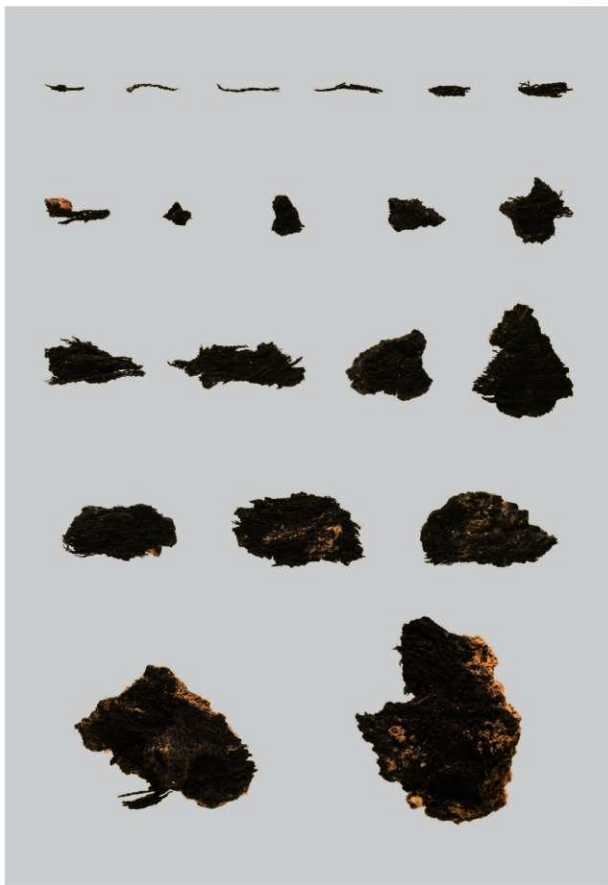
P-297 炭化イネ科茎検出状況



H-64 周辺遺構検出状況



H-64 火災住居の炭化材・繊維製品出土状況



H-64 出土繊維製品

幸連 5 遺跡

目 次

口絵

目次

令和元年度の調査

1	調査の概要	1
2	整理作業・報告書作成の概要	1
	北海道史略年表	3
3	調査遺跡	
	長沼町16区F遺跡	4
	苫小牧市高丘8遺跡	6
	木古内町幸連5遺跡	10
4	協力活動及び研修	16
5	令和元年度刊行報告書	18
6	組織・機構	19
7	職員	

令和元年度の調査

1 調査の概要

発掘調査は、道内1市2町に所在する3遺跡で実施した。このうち2遺跡は以前からの継続調査である。発掘調査を工事原因別にみると、国土交通省北海道開発局が実施する道路整備事業（札幌開発建設部、函館開発建設部）が2町2遺跡、北海道が実施する道路整備事業（胆振総合振興局）に付帯する施設設置事業で民間（NEXCO東日本株式会社北海道支社）が実施するものが1市1遺跡である。

木古内町幸連5遺跡は、平成28年度から調査を実施し、今年度で現地調査は終了した。

苫小牧市高丘8遺跡は、平成30年度に苫小牧中央インター線道路改良部分の調査を実施しており、今年度は、苫小牧中央インター付帯施設の雪氷管理施設設置部分の調査である。

以下、発掘調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すこととし、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などは時期や性格の確定に及んでいないものがある。

縄文時代 早期

長沼町16区F遺跡では、黒曜石製の石刃鏃が出土している。

縄文時代 前期

木古内町幸連5遺跡では、竪穴住居跡、盛土遺構、フラスコ状土坑などを多数検出している。土器は円筒下層式、石器は扁平打製石器などが多く出土している。

縄文時代 中期

前出幸連5遺跡では、重複した竪穴住居跡、斜面に形成された盛土遺構、密集したフラスコ状土坑などを検出している。フラスコ状土坑の中には、覆土中から炭化したクリが大量に出土したものがあ。石器は長野県産黒曜石製の石鏃が出土している。道内では福島町館崎遺跡のものに次いで2例目となる。

苫小牧市高丘8遺跡では、Tビットを検出した。土器は天神山式が出土している。丘状地形の頂部を挟んだ昨年度調査区出土のものと同個体のものがある。

縄文時代 後期

前出幸連5遺跡では、竪穴住居跡、直線状の盛土遺構、掘立柱建物跡などを検出している。

前出16区F遺跡では、後期前葉の土器片やたたき石などの石器が出土している。

2 整理作業・報告書作成の概要

整理作業のみを行った遺跡、発掘調査と整理作業を行った遺跡があり、そのうち、報告書を刊行する遺跡、継続調査及び継続整理を行った遺跡がある。以下、事業ごとに記す。

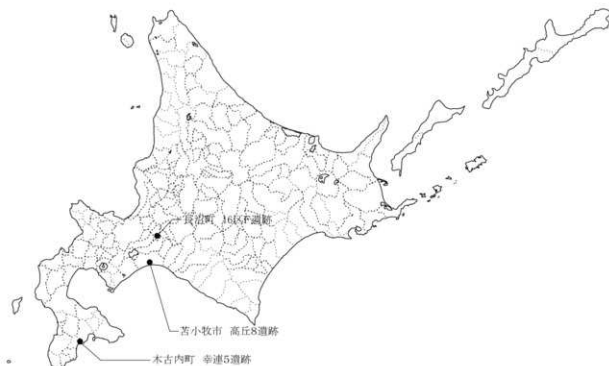
国土交通省北海道開発局事業

- ・道央圏連絡道路関係では、長沼町16区遺跡の整理作業を行う。
- ・函館江差道関係では、木古内町札苅8遺跡の報告書を刊行する。幸連遺跡、幸連4遺跡、幸連5遺跡、札苅7遺跡の継続整理作業を行う。

- ・国道334号関係では、斜里町カモイベツ遺跡の報告書を刊行する。これは、平成20・21・23・24年に斜里町教育委員会が実施した調査成果も合わせて報告するものである。

北海道事業

- ・胆振総合振興局の道路事業では、上向別浦河（停）線道路改築工事に関連して、向別遺跡・栄丘遺跡・昌平町遺跡・常盤町遺跡の報告書を合本で刊行する。
- ・苫小牧中央IC関連では、苫小牧市高丘8遺跡の報告書を2冊刊行する。1冊は平成30年度に調査した、苫小牧中央インター線道路改良工事に伴うものである。もう1冊は、NEXCO東日本北海道支社が実施する、苫小牧中央ICに付帯する雪水管理施設の設置に伴うものである。



令和元年度 発掘調査および掲載遺跡位置図

令和元年度 事業別発掘調査・整理作業一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	概要	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	道央圏連絡道路長沼南横道路工事	16区F	長沼町	1,360	新規
			幸達5	木古内町	1,622	平成28年度から継続
	函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	幸達	木古内町		整理作業 平成30年度から継続
			幸達4	木古内町		整理作業 平成28年度から継続
			札7	木古内町		整理作業 平成25年度から継続
		札8	木古内町		整理作業 平成26年度にも実施	
北海道 胆振総合振興局	上向別浦河（停）線道路改良工事	向別	浦河町		整理作業 平成30年から継続	
		栄丘				
	苫小牧中央インター線道路改良工事	昌平町	苫小牧市		整理作業 平成30年から継続	
		常盤町				
民間 NEXCO東日本北海道支社	苫小牧中央IC雪水管理施設設置工事	高丘8	苫小牧市	1,600	新規	
合 計				4,582㎡		

北海道史略年表

本州の時代区分		年代 (西暦)	北海道の時代区分		令和元年度調査遺跡および掲載遺跡の主な時期	
明治～平成		A. D. 1900	(近 代・現 代)			
江戸時代			近世	アイヌ文化期		
室町時代			中世			
鎌倉時代						
平安時代		A. D. 1200	擦文文化期			
奈良時代		A. D. 800	オホーツク文化期			
古墳時代						
弥生時代		A. D. 300	縄文時代			
縄 文 時 代	晩 期	B. C. 1000	縄 文 時 代	晩 期		16区F 幸連 5
	後 期			後 期		
	中 期	B. C. 2000		中 期		幸連 5 高丘 8
	前 期	B. C. 3000		前 期		幸連 5
	早 期	B. C. 4000		早 期		16区F
	草創期	B. C. 7000		草創期		
				B. C. 13000		
		B. C. 20000	旧石器時代			
		B. C. 30000				

3 調査遺跡

ながめまちよう

長沼町 16区F遺跡 (E-17-32)

事業名：道央圏連絡道路長沼南幌道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町1270外

調査面積：1,360㎡

調査期間：令和元年9月3日～9月27日

調査員：村田 大、新家水奈、佐藤 剛

遺跡の概要

遺跡は長沼町市街より東南東へ直線距離で約3Kmに位置する。馬追丘陵が石狩低地帯東縁に連なる丘端部の標高15～20mの緩斜面に立地し、加賀川右岸の低位段丘に面する。

基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：旧表土（17世紀後葉（Ta-b）以降から近代の表土）、Ⅲ層：樽前b降下軽石層（Ta-b：1667年降下）、Ⅳ層：黒褐色シルト質土、Ⅴ層：黒色シルト質土、Ⅵ層：暗褐色シルト質土Ⅶ層：漸移層、Ⅷ層：黄褐色ローム質土で、Ⅴ～Ⅶ層が調査対象である。

遺構と遺物

遺構は土坑1基、フレイク集中1か所を確認した。これらはすべて縄文時代の遺構である。

土坑は直径約0.5mの小型の円形である。遺物は出土していないが、堆積状況から当該期と考えられる。

フレイク集中は約1.0×0.4mの範囲に分布する。少量のフレイク・チップとともに、Rフレイクが出土した。

遺物は包含層からは土器117点、石器等125点が出土した。

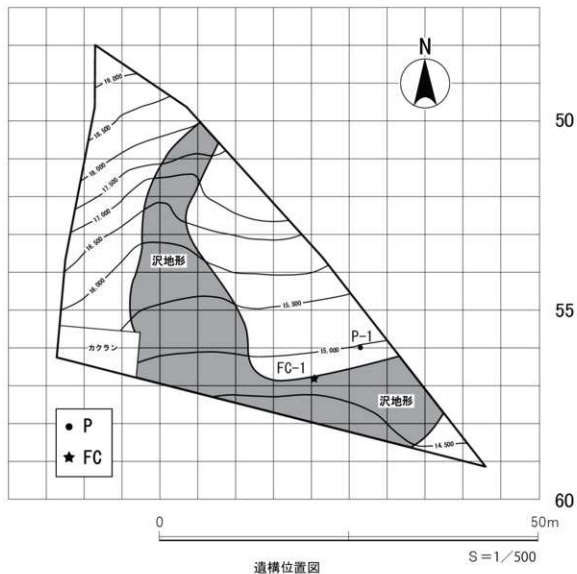
土器は縄文時代後期前葉のものが多く、早期前半の貝殻条痕文系土器とみられるものがある。

石器は縄文時代早期の石刃鏃が少量の礫とともに、沢地形に堆積したⅥ層の樽前d降下軽石（Ta-d：約7,500年前前後に降下）の二次堆積層中から出土した。礫石器ではたたき石が多い。



遺跡の位置（国土地理院数値地図による）

T S R Q P O N M L K J I H G F



P-1 完掘 (南から)



石刃 出土状況 (南から)

苫小牧市 高丘8遺跡 (J-02-286)

事業名：苫小牧中央 I C 雪氷管理施設設置工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：東日本高速道路株式会社北海道支社

所在地：苫小牧市字高丘41番99

調査面積：1,600㎡、第Ⅱ黒色土層調査面積 1,176㎡、第Ⅲ黒色土層調査面積 1,087㎡

調査期間：令和元年6月5日～7月31日

調査員：村田 大、新家水奈、佐藤 剛

調査の概要

遺跡は苫小牧市中央部、JR苫小牧駅から北へ約3km、樽前山から続く標高約50mの丘陵上にある。今年度の調査区は、苫小牧中央インターチェンジ線工事に伴う昨年度の調査区に隣接しており、基本層序は昨年度調査に準じている。発掘調査は、樽前d降下軽石・スコリア層 (Ta-d) より上の第Ⅱ黒色土 (ⅡB) 層 (縄文時代晩期～早期) と、Ta-d層より下の第Ⅲ黒色土 (ⅢB) 層 (縄文時代早期) が対象である。

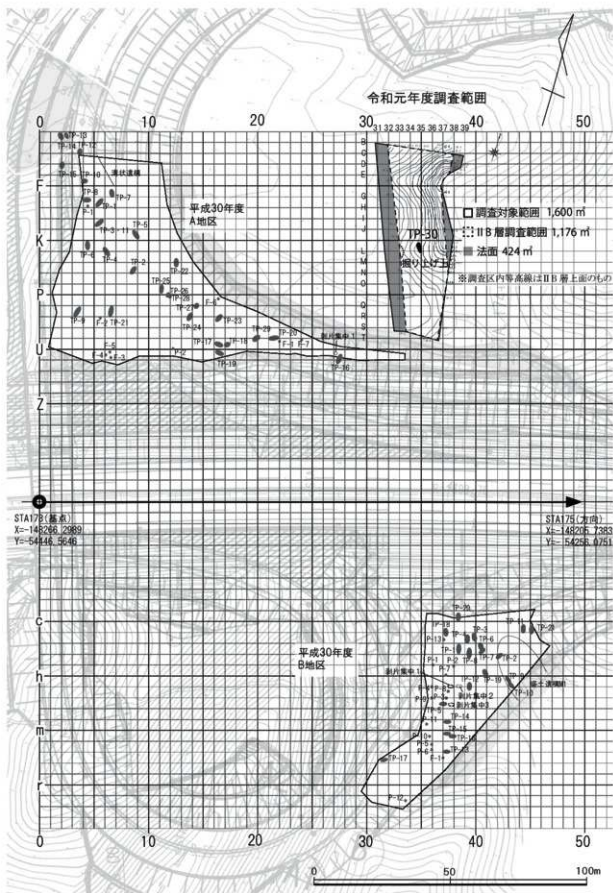
遺構と遺物

ⅡB層の調査では、調査区ほぼ中央でTピット1基を検出した。規模は検出面での長軸約3m、短軸約1m、底面の短軸約30cm、深さ約1.3mで、溝状に近い。また、調査区西側壁に、遺構の掘り上げ土と思われる褐色土の堆積断面を1か所確認した。これらの遺構の時期は、周辺で出土した遺物と同じ縄文時代中期であると思われる。ⅢB層の調査では、遺構・遺物は確認できなかった。

遺物は、第Ⅱ黒色土層から土器片60点、石器・礫等33点、合わせて93点が出土した。土器は縄文時代中期の天神山式で、昨年度A地区出土の土器片と同一個体の可能性があるものもある。石器は黒曜石製の槍先、石鏃、つまみ付きナイフ、石斧片、砥石、すり石などが出土した。



遺跡の位置と周辺の遺跡



平成30年度および令和元年度の調査区と位置図



調査状況



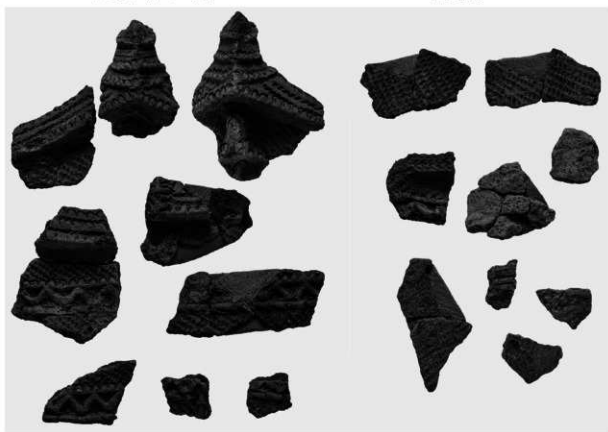
掘り上げ土断面



Tピット (TP-30)



出土石器



出土土器

まごの内町 幸連 5 遺跡 (B-05-62)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（幸連5遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字幸連206、209、215、216

調査面積：1,622㎡

調査期間：令和元年5月10日～10月24日

調査員：土肥研晶 富永勝也 大泰司統 福井淳一 吉田裕史洋 酒井秀治

調査の概要

幸連5遺跡は高規格道路建設工事に先立つ平成27年7月の試掘調査でみつかった。幸連川左岸の海に向かい舌状に張り出す海岸段丘上に広がる縄文時代の集落跡である。発掘調査は、平成28年度から4年度にまたがり実施された。調査地点は道南いさりび鉄道（旧江差線）札内駅から北東約1.2km、現海岸線より約350m内陸の標高20～22mの海岸段丘上に位置する。

遺跡の拡がる海岸段丘の西側は幸連川を望む開けた景観となっており、対岸には札内8、5、6遺跡などが分布する。東側は小沢に深く開析され、2つの沢の合流点を挟んだ対岸に幸連遺跡がある。

段丘上、東西斜面際までの100m幅の間に竪穴住居跡（縄文時代前期後半～後期前葉）が重なり合って分布する。そして、段丘中央にはプラスチック状土坑群（縄文時代前期後半～中期前葉）が密集して検出され、これらの遺構分布を段丘中央で東西に分けるように、南北に貫く幅約10mの削平範囲と、それに伴う並2列の盛土遺構がみついている。東側斜面には縄文時代前期後半から中期前葉の盛土遺構が形成され、2m近く堆積する部分もある。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土層、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：黄褐色ローム層であるが、調査範囲内の基本土層は縄文時代に全て削平され、表土の下はⅢ～Ⅳ層の混合土（主体はⅣ層）の盛土層である。Ⅱ層～Ⅲ層の自然堆積が残る部分は範囲内にみられない。

遺構の床や底面で、Ⅳ層を超え下位の灰白色砂礫層に達している部分も多い。斜面の盛土遺構は斜面際ではⅡ層に挟まる部分のみみられるが、斜面下位では砂礫層に直接堆積している。土砂などの生活廃棄を斜面に捨てる際に、廃棄場所をあらかじめ削りくぼめて、土砂が斜面下に滑り落ちやすい環境を造っていたようにみえる。

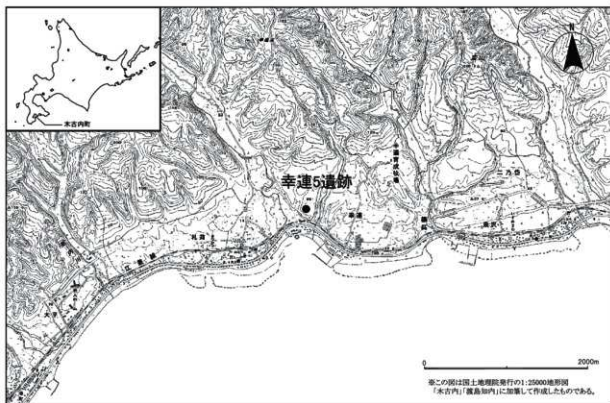
遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居跡143軒、土坑595基、焼土48カ所などであるが（11月20日現在）、竪穴住居の断片しか残っていない住居跡も多く、これらを含むとさらに軒数は増える見込みである。

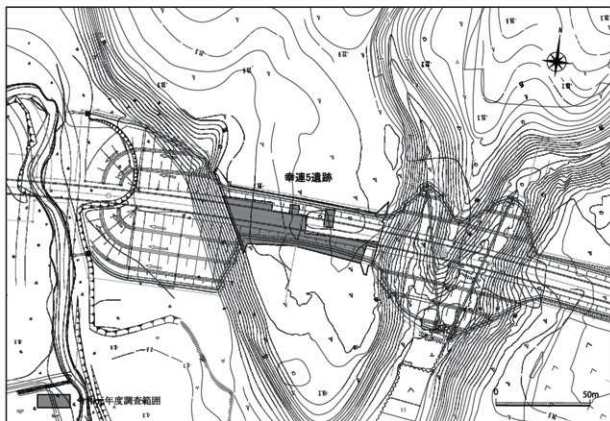
出土遺物は、段丘上で主に縄文時代中期中葉以降の遺物が多く、東側斜面では縄文時代前期後葉から中期前葉の遺物が多い傾向がある。土器は主に縄文時代前期後半（円筒下層式）、中期（円筒上層式、サイベ沢Ⅶ式、榎林式、大安在B式、ノダツⅡ式、煉瓦台式）、後期前葉（天祐寺式、涌元式）が出土している。

石器は、石鏃・石錐・スクレイパー等の剥片石器、たたき石・すり石・扁平打製石器等の礫石器が出土している。剥片石器はほぼ頁岩製で黒曜石も使用される。礫石器では安山岩、砂岩、泥岩、凝灰岩といった石材を使用している。この他には、ミニチュア土器、有孔土製円板等の土製品や、三脚石器、異形石器、石冠、石棒、石刀、青竜刀形石器、玦状耳飾り等の石器が出土している。これらの合計出土点数は、約175万点に到達した（コンテナ箱数からの推計）。

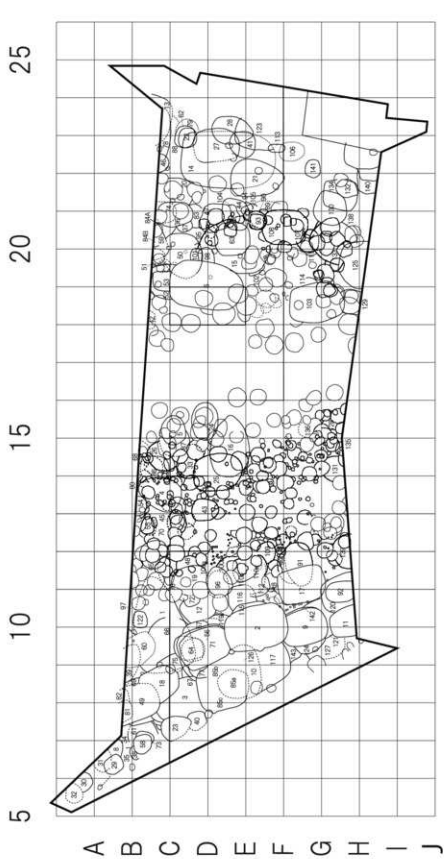
なお、火災住居であった64号住居出土の炭化物サンプルを精査したところ、炭化繊維を確認した。直径約0.7mmのZ撪り（RLの撪り）の集合で、部分的に直行する繊維がみられる。



遺跡の位置図



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



調査終了状況（パノラマ合成写真）



遺跡全景



P-368 覆土遺物出土状況



H-120 埋設土器



H-120 埋設土器内土層断面



H-9 覆土遺物出土状況



H-9 覆土具出土状況



H-9 覆土具出土状況

4 協力活動及び研修（平成31年1月～令和元年12月）

(1) 協力活動

ア 発掘現場見学

*木古内町 幸連5遺跡

6月26日 木古内町文化財審議委員・教育委員会職員（7名）

イ 委員等の委嘱

委嘱内容	文化審議会専門委員（文化財分科会）	
期間・職員	平成31年4月6日～令和2年3月31日	理事長 長沼 孝
委嘱内容	洞爺湖町国指定史跡入江・高砂遺跡保存整備委員会委員	
期間・職員	平成27年4月1日～令和3年3月31日	理事長 長沼 孝
委嘱内容	北広島エコミュージアム会議委員	
期間・職員	平成31年2月28日～令和2年12月31日	第1調査部第3調査課 藤井 浩
委嘱内容	北広島市文化財保護審議委員	
期間・職員	平成31年4月1日～令和3年3月31日	第1調査部第3調査課 藤井 浩
委嘱内容	当別町文化財保護審議委員	
期間・職員	令和元年12月20日～令和3年12月19日	第2調査部第1調査課 鎌田 望

ウ 委員会等の会議

*文化庁

2月27日～3月2日 文化審議会文化財分科会第一専門調査会 東京都台東区 長沼

5月21日 第8回 国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会 札幌市 田口

*全国埋蔵文化財法人連絡協議会

5月8日～10日 第1回役員会 新潟県長岡市 山田・成田

6月12日～14日 令和元年度総会 山形県酒田市 中田・長沼・成田

10月24・25日 北海道・東北地区会議 岩手県奥州市 山田・小杉

11月21・22日 第2回役員会 東京都多摩市 山田・成田

12月12・13日 令和元年度研修会 京都市上京区 小笠原・末光

*洞爺湖町

10月4日 国指定史跡入江・高砂貝塚保存整備委員会 洞爺湖町 長沼

エ 調査指導および講演会等の講師

*福島町教育委員会

1月17日 歴史文化講演会 講師 福島町 長沼

*森町ストーン・サークル研究会

1月18日 縄文講座 講師 森町 長沼

*三内丸山遺跡センター

4月20日～21日 三内丸山遺跡センターオープン記念ワークショップ
「黒曜石の2大ブランドー北海道と長野の黒曜石で石器をつくろう」 青森市 長沼

*札幌市仏教連合会

5月4日 花まつり特別講演会「縄文文化を知る・学ぶ」 講師 札幌市 長沼

*由仁町教育委員会

7月2日 由仁町高齢者教養講座ユニカレッジ 講師 由仁町 長沼

*北広島市教育委員会

エコミュージアム普及推進事業

5月16日	まちを好きになる市民大学 講師	北広島市	藤井
9月21日	歴史遺産特講（歴史遺産研究）	北広島市	藤井
9月28日	歴史遺産特講（調査実習）	北広島市	藤井
11月9日	エコミュージアム資料論（考古学資料論）	北広島市	藤井
12月7日	歴史遺産報告会（考古学資料論）	北広島市	藤井

*千歳市教育委員会

8月3日	令和元年度文化財普及啓発事業体験学習会「石器をつくろう！」講師	千歳市	直江
------	---------------------------------	-----	----

*木古内町教育委員会

8月22日	リロナイふれあい学園 講師	木古内町	土肥
-------	---------------	------	----

*浜頓別町教育委員会

10月18日	秋の特別文化財講演会	浜頓別町	長沼
--------	------------	------	----

*枝幸町教育委員会

10月25日～28日	歌登バンケナイ貝塚試掘調査	枝幸町	福井
------------	---------------	-----	----

*明治大学

11月24日～25日	文部科学省科学研究費補助金による「東太平洋岸地域の歴史・考古学的総合研究」考古部門総括報告会	岩手県盛岡市	佐藤 福井
------------	--	--------	-------

*苫小牧市縄文会

11月30日	令和元年度講演会「北の縄文文化を知る・学ぶ・考える」講師	苫小牧市	長沼
--------	------------------------------	------	----

*北海道考古学情報交換会

12月7日～12月8日	第40回 北海道考古学情報交換会	函館市	福井
-------------	------------------	-----	----

オ 職員の出向

	*埋蔵文化財発掘調査に伴う技術指導		
出 向 先	公益財団法人 かながわ考古学財団		
出 向 期 間	令和元年9月1日～令和2年3月31日		
出 向 者		第2調査部第2調査課	影浦 覚
出 向 先	公益財団法人 滋賀県文化財保護協会		
出 向 期 間	令和元年10月1日～令和2年3月31日		
出 向 者		第2調査部第2調査課	広田良成 第2調査部第2調査課 山中文雄

(2) 研 修

*文化庁	2月5日～8日	平成30年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	
			大阪市 小杉・中村・佐藤・直江
	8月21～23日	令和元年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	
			札幌市 長沼・倉橋・鈴木・阿部・菅野
*独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化財担当者専門研修			
	10月15～24日	「保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程」	奈良県 立田
*北海道教育委員会	平成30年度アイヌ文化財専門職員等研修会		
	1月15日	札幌市 田口・柳瀬・富永・鈴木・佐藤・笠原・直江・村田・立田	

5 令和元年度刊行報告書

第360集『苫小牧市 高丘8遺跡(1)』

苫小牧中央インター線(仮称)道路改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第361集『苫小牧市 高丘8遺跡(2)』

苫小牧中央IC雪氷管理施設設置工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第362集『木古内町 札苅8遺跡』

高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第363集『浦河町 向別遺跡・栄丘遺跡・昌平町遺跡・常盤町遺跡』

上向別浦河(停)線道路改築事業埋蔵文化財調査報告書

第364集『斜里町 カモイベツ遺跡』

一般国道334号斜里町日の出事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

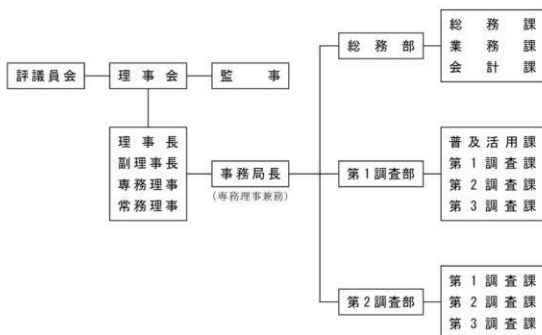
6 組織・機構

役員（令和元年6月21日現在）

理事長	長	沼	孝
副理事長		欠	
専務理事	山	田	寿雄
常務理事	鈴	木	信
理事	白	杵	勲
理事	菊	池	俊彦
理事	関	口	明
理事	中	田	仁
理事	成	田	直彦
理事	本	田	優子
理事	山	田	悟郎
監事	坂	本	均夫
監事	佐	藤	一夫

評議員（令和元年6月21日現在）

評議員	伊	藤	文	明
評議員	遠	藤	龍	敏
評議員	川	上	淳	
評議員	鈴	木	明	彦
評議員	千	葉	英	一
評議員	鶴	丸	俊	明
評議員	西	川	幸	隆
評議員	前	川	洋	
評議員	卷	沢	雄	二
評議員	山	田	享	
評議員	和	田	基	興



7 職 員 (令和2年1月1日現在)

事務局長(兼務)

山田 寿雄

総務部

総務部長	成田直彦	業務課長	小笠原学
総務課長	小杉充	主任	今野安
主任	葛西宏昭	主任	菅野忠
主査	浅井真介	主任	菅野三浦
主査	中村貴志		
主査	礪田千秋		

第1調査部

第1調査部長(兼務)	鈴木信
普及活用課長	倉橋直孝
主査	坂本尚史
主査	立田由理
第1調査課長	柳瀬山大人
主査	中池光正
主任	菊末正卓
主任	三浦正人
主任	田口尚晶
第2調査課長	土肥研晶
主査	富永勝也
主査	大森司一
主査	福井淳裕
主査	吉田裕史
主査	酒井秀治
第3調査課長	皆川洋一
主査	藤井浩行
主査	鈴木宏

第2調査部

第2調査部長	村田大
第1調査課長	鎌田和望
主査	愛場直人
主査	芝田直子
第2調査課長	笠原興
主査	影浦部義
主査	阿田明成
主査	広中良文
第3調査課長(兼務)	村田大
主査	新田家水
主査	佐藤剛

調 査 年 報 32

令和元年度

令和2年3月16日発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116☎・FAX 011-375-2115
